

日露戦争に思う

日露戦争は1904年2月6日、日本の帝政ロシアに対する宣戦布告から、1906年9月5日の日露講和条約（ポーツマス条約）調印までの戦争である。ロシアの南下政策に対する日本の緩衝域を求める祖国防衛戦である。

本稿は、ロシアのウクライナ侵攻の真最中に書かれているのだが、この戦争も緩衝域を求める戦いであり、ロシアにとって祖国防衛戦であることは知っておくべきだろう。戦時下の各国のプロパガンダに騙されてはなるまい。ロシアの戦争の歴史は悲惨である。ロシア為政者の恐怖はまた、戦争の誘因でもある。

二つの祖国防衛戦争

1812年、フランスのナポレオンはロシア侵略を行いモスクワは陥落した。後にロシアは仏軍を退けたのだが、ロシアではこの戦争を、祖国を守り抜いた「祖国防衛」と言い、ロシアの歴史教育で教える。日本では政府が閣議決定した大東亜戦争という正式名称も使わず、筆者は学校で近代の歴史教育を受けた覚えはない。ロシアがその次に大侵略を受けたのが、独ソ戦であり、大本 毅著の同名の書に詳しい。ソ連は何とナチス・ドイツとの戦争で2700万人の死者を出す空前絶後の戦いであった。大東亜戦争の日本の死者の9倍である。1941年6月22日、突如、独ソ不可侵条約を破って、ナチス・ドイツはバルバロッサ（赤髭）作戦を開始した。ロシアでは、この祖国防衛戦を「大祖国防衛」と言う。

第一次世界大戦とロシアの内戦

話しを少し戻そう。1914年、プロイセン・ドイツ帝国はロシアに侵攻した。翌1915年にはベラルーシ、ウクライナが侵攻され、ロシア帝国の財政は急速に衰えた。それによって1917年にはロシア革命が勃発し、1922年までの六年にも渡る赤軍と白軍の内戦に突入した。この内戦によりヴォルガ川の沿岸地方は飢饉に見舞われ、500万人が死んだ。ソ連の成立が、如何に多くの死で購われたかが分かる。内戦のロシアは包囲されていた。1918年にはドイツ帝国軍はウクライナ、ベラルーシ、ラトビア、エストニアを占領し、トルコはカフカス地方に侵入した。日本はウラジオストックに海軍陸戦隊を上陸させている。

第二次世界大戦と独ソ戦

1939年8月、ヒトラーとスターリンは独ソ不可侵条約を結ぶと同時に密約により両国は翌9月に隣国ポーランドに侵攻した。ポーランドと対独軍事同盟を結んでいた英国はドイツに宣戦布告し、第二次世界大戦が始まった。1941年6月、独ソ不可侵条約をヒトラーは突然破棄し、ドイツ軍はキエフからモスクワに進軍した。独ソ両軍の攻防戦では700万人が投入されたという。戦死者、重傷者の合計は250万人、ソ連側は189万6500人、ドイツ側は61万5000人である。映画で有名になった、スターリングラード攻防戦では91万人の投入、1944年6月11日のノルマンディー上陸作戦での両軍の投入は20万人であったから、如何に独ソ戦が大規模で悲惨であったかが分かる。

その原因は何であったろうか。

筆者はかつて軍事・経済評論家の長谷川慶太郎氏に教えて頂いたのだが、スターリンの赤軍幹部の大量処刑（ロシアでは「大弾圧」と言う）が原因で、軍隊の体をなさなくなっていたのである。大規模な自国民の粛正は悪魔を産む。スターリン、ヒトラー、毛沢東、ポルポトも悪魔となった。

ウクライナ侵攻

大東亜戦争末期、ロシアは日ソ不可侵条約を破って日本に襲いかかったが、欧米諸国はパワーバランスが崩れば条約の履行は反故にするらしい。筆者は今般のロシアのウクライナ侵攻はロシアの安全保障の為に緩衝域を求める軍事作戦と考えている。何故に侵攻までしたのか。少なくとも2014年からウクライナのロシア系住民がウクライナ軍から圧迫を受けて内戦になっていた。その解決の為に「ミンスク合意」がなされたが、ゼレンスキー政権は履行しなかったからである。

ウクライナ官民の中樞は汚職に塗れていることは有名であり、ネオコンと言われる米国軍需利権が今も根深く関与している。ウクライナが泥沼化すれば、武器が売れて儲かる。ネオコンは米国内でもディプステートとなり、トランプ候補の米大統領選挙では、不正選挙による事実上のクーデターとなった。ネオコンが支援するバイデン息子のウクライナ・ゲートは争点にもなった。ロシアのウクライナ侵攻は、緩衝域実現が見通せれば停戦となるだろう。

日露平和条約

1932年3月1日に満州国の成立を見たが、これも日本にとって対ソ緩衝域として、関東軍の軍事作戦が産んだ結果と見ることも出来る。今日、東アジアでは米国が求める対中露緩衝域として韓国と日本がある。米中は核大国として対峙しているが、米台の軍事同盟がない現在では、台湾侵攻は中国の手によるだろう。昨今の対露制裁によって、日露平和条約締結の機会を失った日本政府は、中国の台湾侵攻が起った際に、どのような軍事作戦をとるのだろうか。何もしなければ日本は尖閣や沖縄を失う。

奇しくも今日は、日露戦争で日本軍が勝利した日である。日露戦争は陸軍の「奉天の戦い」で終わった。ウクライナでも同様だが、各国では陸軍記念日や海軍記念日を定めている。日本では3月10日が陸軍記念日であった。筆者の祖父は日露戦争に従軍し、奉天の戦いで機関銃の銃創を負い数日後に戦死した。戦闘から戦死までを記した下士官であった人の、筆者の父に宛てた弔意の手紙が残っている。戦死特進した祖父は陸軍少佐と墓碑に刻まれている。筆者にとっては、祖父が尺八の名手で「風流大尉」と呼ばれていたことの方が嬉しい。その尺八も残されている。芸能は平和の内に生まれる。

令和四年三月十日

日露戦争戦勝記念日（陸軍記念日）に記す

大中臣正比呂